

# Asia Indicators

発表日: 2020年1月31日(金)

豪州、インフレ率は依然目標を下回る水準で推移 (Asia Weekly(1/27~1/31))

~ニュージーランドの輸出はアジア新興国向けに堅調さの一方、先進国向けは弱含む展開~

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
 主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522)

## ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
1/29(水)	(豪州)10-12月消費者物価(前年比)	+1.8%	+1.7%	+1.7%
	(タイ)12月製造業生産(前年比)	▲4.35%	▲7.00%	▲8.09%
1/30(木)	(ニュージーランド)12月輸出(億 NZドル)	55.4	56.0	52.1
	12月輸入(億 NZドル)	50.0	54.0	60.0
	(香港)12月輸出(前年比)	+3.3%	+2.7%	▲1.4%
	12月輸入(前年比)	▲1.9%	▲1.9%	▲5.8%
1/31(金)	(韓国)12月鉱工業生産(前年比)	+4.2%	+1.0%	▲0.2%
	(中国)1月製造業 PMI	50.0	50.0	50.2

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

## [豪州]~生活必需品でインフレ圧力が強まる動きも、インフレ率もコアインフレ率も引き続き目標を下回る推移~

29日に発表された10-12月の消費者物価は前年同期比+1.8%と前期(同+1.7%)から伸びが加速したものの、6四半期連続で豪州準備銀行(中銀)が定めるインフレ目標(2~3%)を下回る水準で推移している。前期比は+0.61%と前期(同+0.35%)から上昇ペースが加速しており、生鮮品を中心に食料品価格で上昇圧力が強まる動きがみられるほか、国際原油市況の底入れの動きなどを反映してガソリンをはじめとするエネルギー価格も上昇するなど、生活必需品で物価上昇圧力が強まっていることが影響している。なお、同国ではトリム平均値(刈り込み平均値)ベースの伸び率をコアインフレ率としているが、10-12月は前年同期比+1.6%と前期(同+1.6%)と同じ伸びとなり、丸4年に亘ってインフレ目標を下回る推移が続いている。前期比も+0.4%と前期(同+0.4%)と同じ上昇ペースに留まっており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れや昨年以降の通貨豪ドル相場下落による輸入物価への押し上げ圧力などを反映して財価格は幅広く上昇傾向を強める動きをみせる一方、堅調な雇用環境にも拘らずサービス物価の上昇圧力は後退しており、景気の先行き不透明感の高まりが物価の重石になっているとみられる。先行きについては、昨秋以降に発生している森林火災の影響で農産品を中心とする食料品価格の上昇が懸念される一方、景気に対する下押し圧力が物価上昇圧力の緩和に繋がることで比較的安定した推移が続くと見込まれる。

図1 AU インフレ率の推移

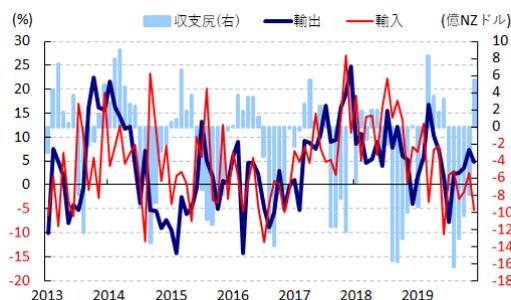


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [ニュージーランド]～中国をはじめアジア新興国向け輸出に底堅さの一方、先進国向けは力強さを欠く展開～

30日に発表された12月の輸出額は前年同月比+4.8%となり、前月(同+7.3%)から伸びが鈍化した。前月比も▲4.8%と前月(同+6.9%)から2ヶ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も拡大傾向が鈍化するなど頭打ちの様相を強めている。財別では、国際原油市況の底入れの動きを反映して原油関連の輸出が押し上げられているほか、機械製品関連の輸出にも底堅さがみられる一方、主力の輸出財である乳製品関連に下押し圧力が掛かっているほか、食肉関連の輸出が力強さを欠く動きをみせていることも全体の重石になっている。国・地域別では、最大の輸出相手である中国向けに堅調さがうかがえるほか、ASEANをはじめとするアジア新興国向けにも底堅さがみられる一方、米国向けや日本向け、EU向けなど先進国向けが力強さを欠いていることが足かせになっている。一方の輸入額は前年同月比▲5.4%となり、前月(同+2.4%)から2ヶ月ぶりに前年を下回る伸びとなった。前月比も▲12.4%と前月(同+6.6%)から2ヶ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きをみせている。国際原油市況の底入れにも拘らず原油及び石油製品関連の輸入に大きく下押し圧力が掛かっているほか、機械製品関連や縫製品関連、プラスチックをはじめとする化学製品関連など幅広い分野で鈍化するなど、全般的に頭打ちの様相を強めている。結果、貿易収支は+5.47億NZドルと前月(▲7.91億NZドル)から6ヶ月ぶりの黒字に転じている。

図2 NZ 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [韓国]～米中合意への期待に加え、中国の春節前の需要駆け込みの動きも幅広い分野で生産を押し上げる～

31日に発表された12月の鉱工業生産は前年同月比+4.2%となり、前月(同▲0.2%)から3ヶ月ぶりに前年を上回る伸びとなった。前月比も+3.51%と前月(同▲0.47%)から3ヶ月ぶりの拡大に転じ

ており、中期的な基調も拡大傾向が強まるなど底打ち感がうかがえる。国際商品市況の底入れの動きを反映して鉱業部門の生産が押し上げられたほか、低迷が続く建設業の生産にも底打ち感が出ている上、製造業の生産も拡大傾向を強める一方、サービス業では生産が弱含む展開が続くなど対照的な動きもみられる。財別では、半導体をはじめとする電子部品関連の生産は引き続き堅調な推移をみせているほか、主力の輸出財である電気機械関連や自動車関連などで生産拡大の動きが鮮明になっており、米中合意への期待や中国の春節前の駆け込み需要の動きなどが生産の押し上げに繋がっている。平均設備稼働率も74.3%と前月（71.9%）から2.4pt上昇するなど、幅広い分野で生産拡大の動きがみられた。

図3 KR 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

**[タイ]～医薬品や電子部品・電気機器関連など一部に底打ち感も、全体的な生産動向は頭打ちが続いている～**

29日に発表された12月の製造業生産は前年同月比▲4.35%と8ヶ月連続で前年を下回る伸びとなったものの、前月（同▲8.09%）からマイナス幅は縮小した。前月比も+2.59%と前月（同▲1.56%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど頭打ちの状況が続いている。財別では、主な輸出財のひとつである医薬品関連やコンピュータ関連を中心とする電子部品及び電気機器関連のほか、加工食品関連などで生産に底打ちの動きがみられる一方、主力の輸出財である自動車をはじめとする輸送用機械関連の生産は引き続き弱含む展開をみせているほか、化学関連の生産も力強さを欠くなど、世界経済の減速懸念などに伴う外需の弱さが生産の足かせとなる状況は続いている。平均設備稼働率も65.0%と前月（63.0%）から2.0ptと大幅に上昇しているものの、過去に比べて低水準での推移が続くなど生産を取り巻く環境は厳しい状況にあると判断出来る。

図4 TH 製造業生産の推移

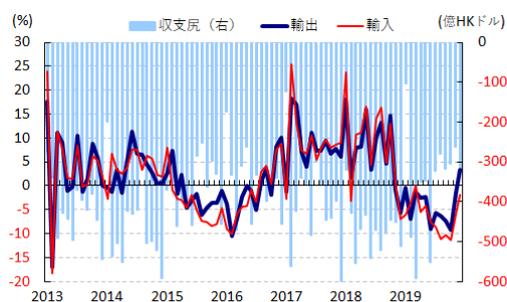


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

## [香港]～米中合意への期待などを背景に輸出に底打ち感が出る一方、輸入は対照的に弱含む展開が続く～

30日に発表された12月の輸出額は前年同月比+3.3%となり、前月（同▲1.4%）から14ヶ月ぶりに前年を上回る伸びとなった。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底打ちが進んでいる様子が見えてくる。米中合意への期待に加えて、国際金融市場が活況を呈するなかで世界的に製造業の企業マインドに底打ち感が出ていることも押し上げに繋がったとみられる。一方の輸入額は前年同月比▲1.9%と13ヶ月連続で前年を下回る伸びとなったものの、前月（同▲5.8%）からマイナス幅は縮小した。ただし、前月比は2ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど輸出と対照的に頭打ちの状況が続いている。結果、貿易収支は▲324.97億HKドルと前月（▲261.68億HKドル）から赤字幅が拡大した。

図5 HK 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。